

岡山・倉敷・福山圏域における都市圏並びに都市圏間の ネットワーク形成に関する調査

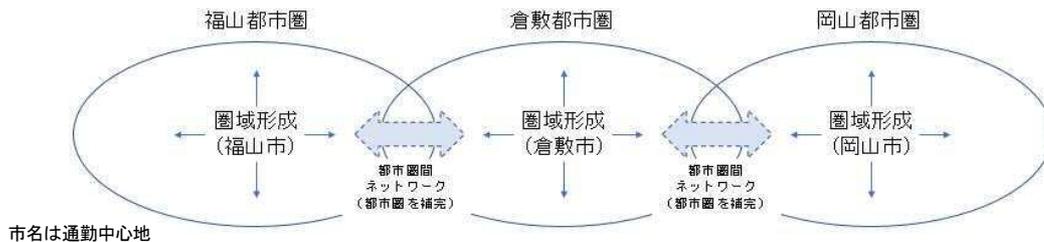
－ 結果概要 －

1. 調査の実施要領

(調査の背景と目的)

- 中国地域では、各地で連携中枢都市圏の形成など市町村を越えた都市圏形成の取組みが進展。このことは、人口減少が進む当地域にあって、個々の市町村の持続性強化を図る点で大きな意義があると考えられる。
- 今後、各都市圏が経済取引や企業・住民の交流等を促進する上で、「都市圏間のネットワークを形成」することが地域の自立性・持続性を高めことに一層貢献する可能性も大きい。
- そのような観点から、岡山・倉敷・福山の各都市圏を対象地域とし、広域的に活動する地域企業に対し都市圏や都市圏間ネットワーク形成に関わる意識を把握・分析する目的で本調査を実施。

－都市圏の形成と都市間ネットワークの位置づけ－



- 岡山都市圏から倉敷都市圏、福山都市圏に至る地域は、連担する各都市圏の人口規模に近い一方、産業構造等に異なる特性を有するエリアであり、対等で相互にメリットがある都市圏間ネットワークによるメリットが期待できる地域である。
- 本調査を基に、同地域における都市圏間ネットワークの形成促進に繋がる切り口を探るとともに、企業にとっての都市圏間ネットワークの形成促進の重要性や可能性を明確化する。

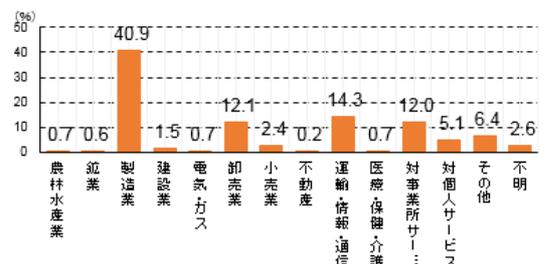
(調査の対象と実施結果)

- 立地する都市圏を越えて圏域外にも市場を有すると想定される産業を中心に、2,503 事業所を調査対象とした。回答事業所は 545 件、回収率は 22.3%。
- 回答事業所の産業構成を3圏域の合計で見ると、「製造業」が最も多く 40.9%を占める。この他では「運輸・情報・通信」が 14.3%、「卸売業」が 12.1%、「対事業所サービス」が 12.0%と回答が多い。

－調査の実施結果－

項目	(所、%)			
	I 岡山 都市圏	II 倉敷 都市圏	III 福山 都市圏	合計
① 発送事業所数	788	845	870	2,503
② 有効発送事業所数	788	804	847	2,439
③ 回答事業所数	173	163	209	545
④ 回収率 (③/②)	22.0	20.3	24.7	22.3

－回答事業所の回答分類－



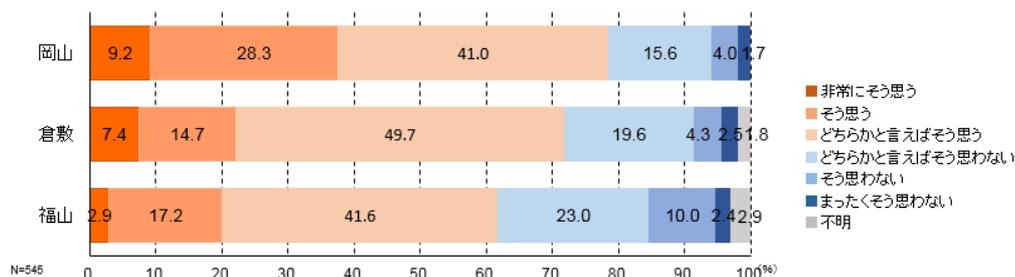
調査結果サマリー

〔調査結果①〕

- 調査対象とした岡山、倉敷、福山の3地域では、「企業活動にプラスの影響を与える事業環境がある」という点で「都市圏」が形成されている。
- 3地域における都市圏の形成は、主に企業間の関係が基礎になったものである。

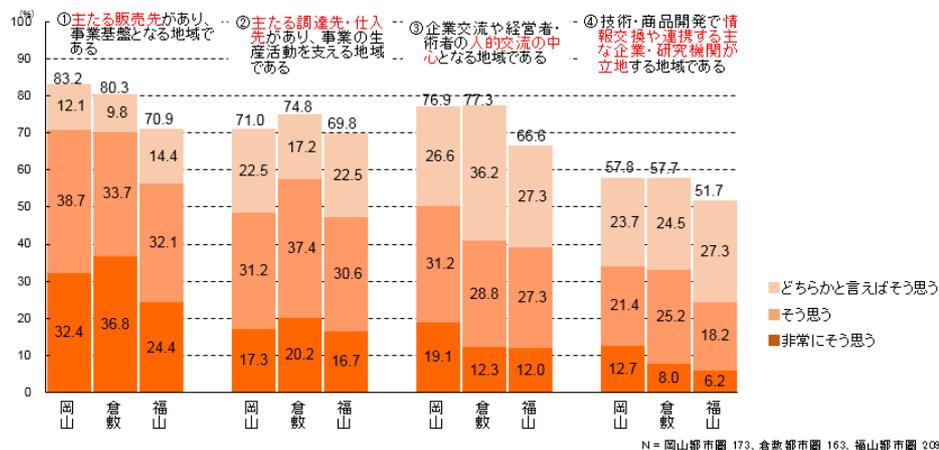
- ・「立地する都市圏の事業環境からプラスの影響を受けているか」を尋ねたところ、3都市圏合計では肯定的意見が60%～80%。高いレベルで都市圏が形成されていると考えられる。但し、岡山、倉敷、福山の都市圏形成の程度には地域間で差がみられる。

ー立地する都市圏の事業環境からプラスの影響を受けているか(単純回答)ー



- ・「事業所の事業等に対する立地する都市圏の位置づけや地域に対する意識」を確認したところ、企業間取引・企業間連携の項目はいずれも肯定的意見が多く、都市圏間の差異も小さい。企業間関係は都市圏形成の基礎になっていると考えられる。

ー事業所の事業等に対する立地する都市圏の位置づけや地域に対する意識(単純回答)ー 〔企業間取引・企業間連携〕

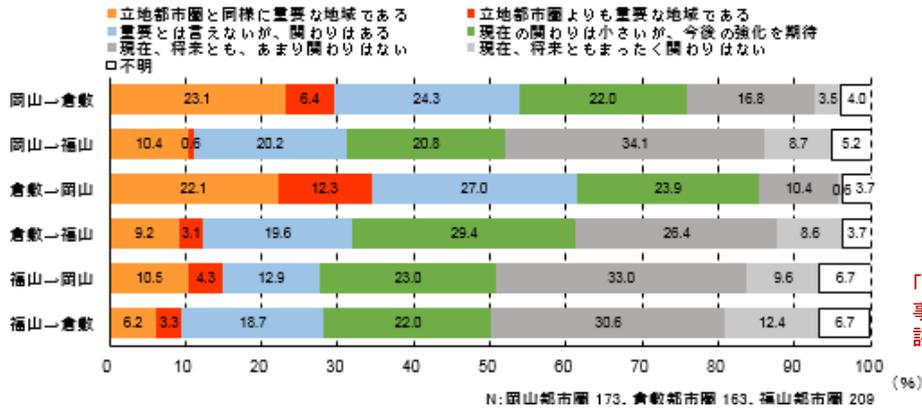


〔調査結果②〕

- 3都市圏のうち、岡山・倉敷間には、それぞれの圏域の事業環境から相互にプラスの影響を受けているという双方向性がみられる。これには岡山と倉敷の間における販売や調達・仕入といった取引関係が影響している。

- ・他の都市圏について自社の事業競争力に影響を与える地域かどうか尋ねたところ、「立地都市圏と同様に重要な地域である」と「立地都市圏よりも重要な地域である」の合計は岡山・倉敷間で回答が多い。

—他の都市圏の事業環境からプラスの影響を受けているか(単数回答)—

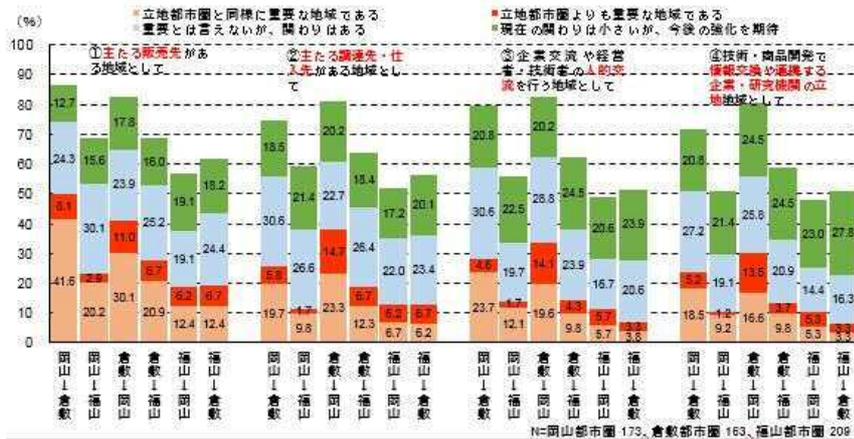


「岡山→倉敷」は、岡山都市圏事業所の倉敷都市圏に対する評価を表している。

- 他の都市圏に対する事業環境が自社事業所においてどのような影響を受けているのか、企業間関係を見た結果、「主たる販売先がある地域」として岡山の倉敷に対する評価、それと対となる形で「主たる調達先・仕入先がある地域」として倉敷の岡山に対する評価が大きい。

—他の都市圏と事業等との関わり(単純回答)—

〔企業間取引・企業間連携〕



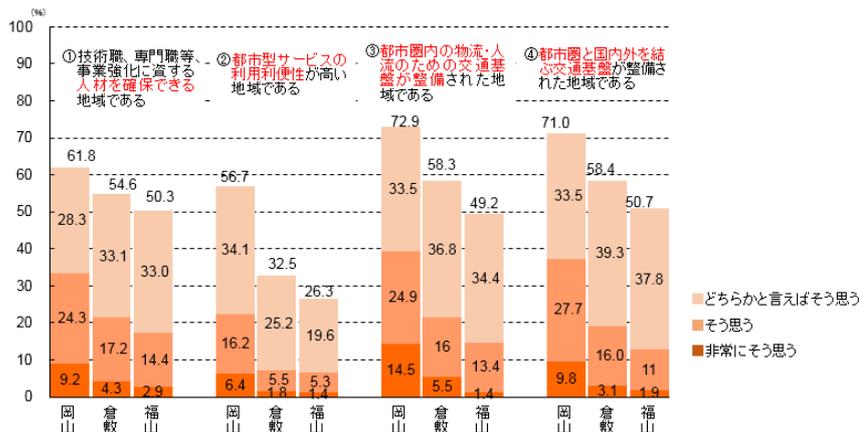
「岡山→倉敷」は、岡山都市圏事業所の倉敷都市圏に対する評価を表している。

〔調査結果③〕

- 人材確保、都市型サービス、国内外への交通基盤といった立地環境（都市機能）には、岡山と他の都市圏の間で自都市圏の評価に大きな差がみられる。
- 岡山・倉敷間の企業間取引の双方向性を踏まえると、倉敷からの岡山の都市機能に対するアクセスは、両都市圏の企業活動にとって重要な意味を持つ。

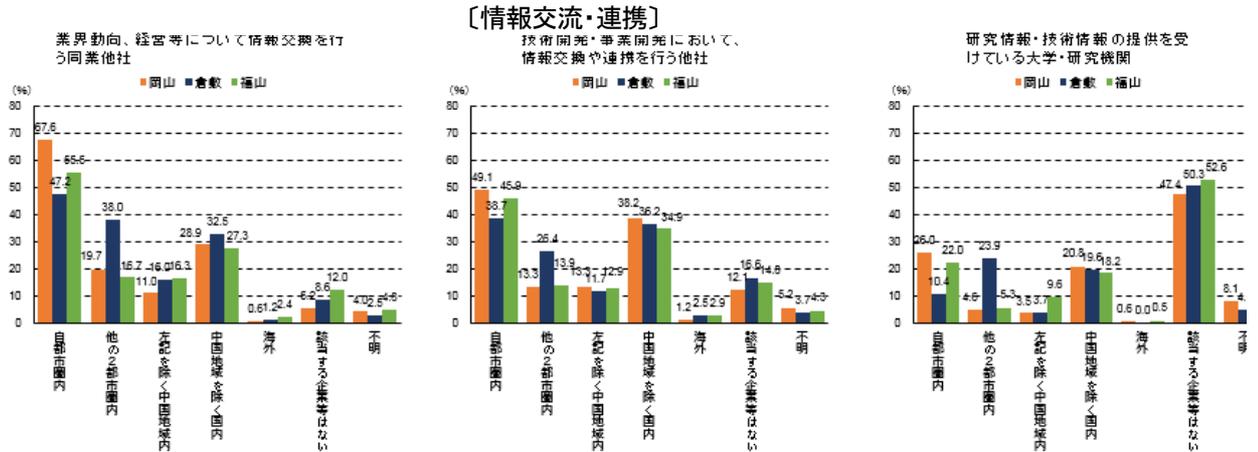
—事業所の事業等に対する立地する都市圏の位置づけや地域に対する意識(単純回答)—

〔立地環境〕



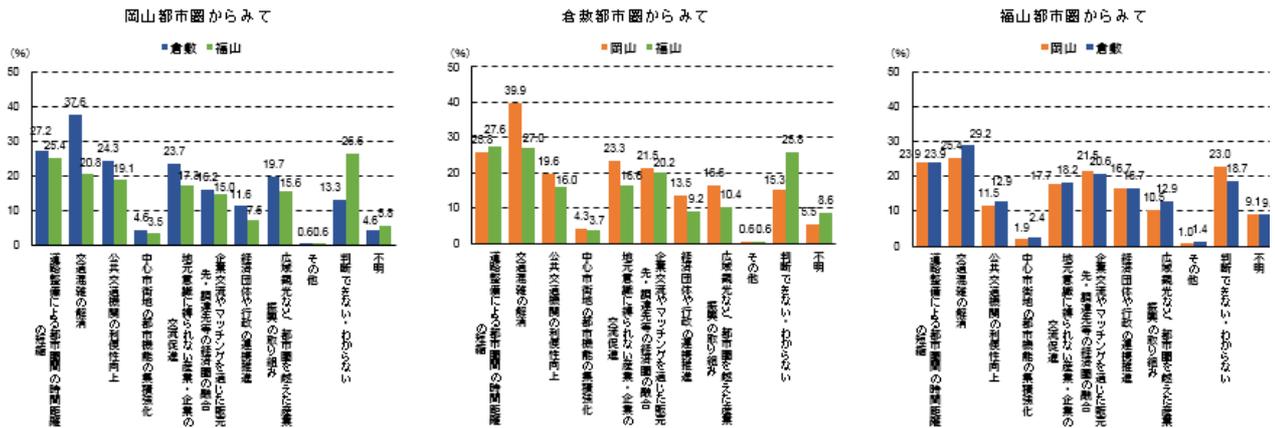
- ・情報交流や研究開発等に関わる連携の状況を見ると、岡山の「情報交換を行う同業他社」は「大都市圏内」が70%近い一方、倉敷では「他の2都市圏内」を挙げる事業所が多い。また情報交換や連携を行う他社や大学・研究機関は、倉敷では「他の2都市圏」を挙げる事業所が多い。

—関係先企業や研究機関等が立地する地域(複数回答)—



- ・都市間の産業・企業の繋がりの強化に必要なこととして、岡山・倉敷間では約40%が「交通混雑の解消」を挙げている。また「地元意識に縛られない産業・企業の交流促進」が約4分の1に達するほか、倉敷や福山は「企業交流やマッチングを産業・企業の交流促進」に対する回答が多い。

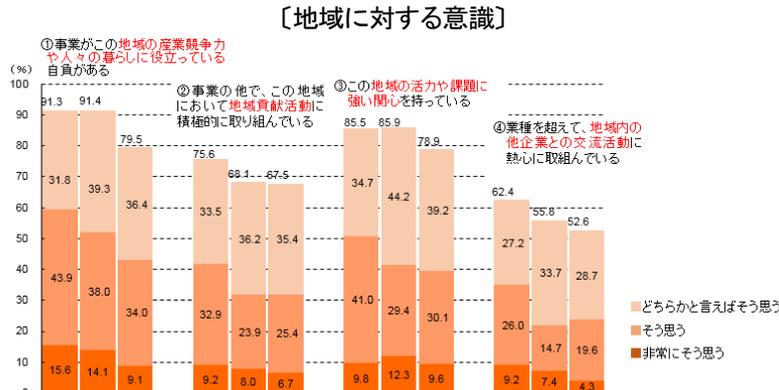
—他の都市圏の産業・企業との繋がりを強化するために必要なこと(複数回答)—



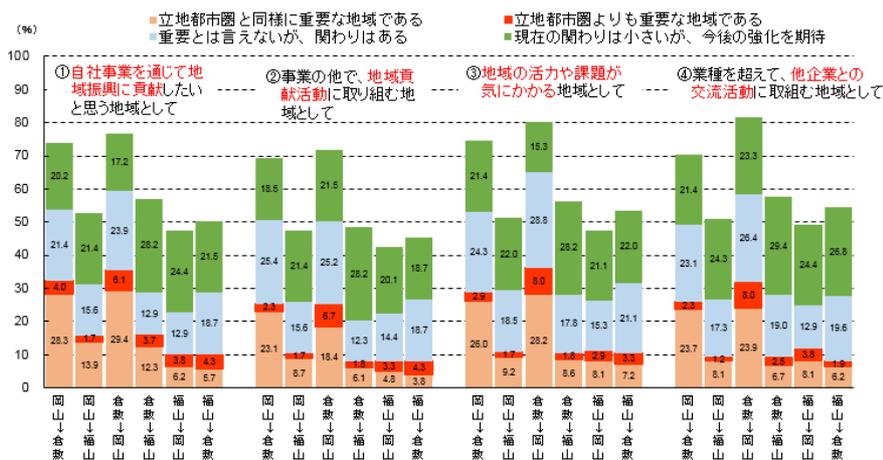
〔調査結果④〕

- 各都市圏では地域への貢献意識、地域課題への関心といった「地域意識」も高く、都市圏形成にプラスに働いていると考えられる。
- 岡山・倉敷の間では、相互の都市圏に対する「地域意識」が強くかつ双方向的である。

—事業所の事業等に対する立地する都市圏の位置づけや地域に対する(単純回答)—



— 一他の都市圏と事業等との関わり(地域に対する意識、単純回答) —



「岡山→倉敷」は、岡山都市圏事業所の倉敷都市圏に対する評価を表している。

〔調査結果のまとめ〕

- 岡山・倉敷の間では「産業・企業のつながりの強化を積極的に推進すべき」が60%を上回り、かつ双方向的である。
- ただし、「期待」が「現実」を上回り、期待はあっても実現さされていないと考える事業所が多い。
- 岡山・倉敷間では「決まって発生する交通混雑」が最大の問題点になっている。交通混雑の問題は、倉敷からの岡山の都市機能に対するアクセス性を低下させていると考えられ、両都市圏の発展を阻害している可能性が考えられる。



〔都市圏整備の取組の方向性〕

- ① 都市間 交通の強化

 - 岡山・倉敷間の都市圏ネットワークの形成は地域企業のニーズであり、相互アクセスの強化のため交通混雑の解消を最優先課題として取り組む。
 - 岡山・福山の2都市圏間では、混雑解消とともに時間距離の短縮に資する道路整備を促進する。
- ② 企業間 交流の強化

 - 岡山・倉敷間には、相互の地域に貢献したい、課題を自地域同様に捉えるといった地域意識が存在。
 - 都市圏ネットワークにプラスに働く地域意識を基礎に、企業間交流の強化を図ることが必要。
- ③ 多面的 連携の展開

 - 岡山・倉敷・福山の3都市圏では、自治体が各地域で連携中枢都市圏形成の取り組みを推進している。
 - 連携中枢都市圏の施策は都市圏内が対象であるものの、企業の都市圏間ネットワークのニーズを踏まえ、自治体等を含めた都市圏間の多面的な連携について検討が必要。

以上